

(4) 広報のポイント

事業のチラシを当施設ホームページに掲載し、事業の周知を図った。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会や役場の保育園担当部署、幼稚園や保育園と報道機関へ開催要項とチラシを配付した。

(5) 運営のポイント

「ダンボールであそぼう」では、子供たちの自発的な遊びを引き出すことができるように、講師と相談しながらダンボール遊具や忍者ランドの遊具を使ったコースを設定した。また、幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を取り入れた活動の有用性を体感することができる研修になるように、盛岡大学の幼児教育系大学生や県立の社会教育施設職員、当施設の職員が実際にプログラムに参加する体験型の研修の場となるようにした。

また、1日目の入浴後、「TOHOKU 紙芝居の会」のみなさんの、保護者へも紙芝居を見せたいという御厚意により就寝前の落ち着いた時間に親子で紙芝居を見る時間をとることができた。

6 成果とその普及

「雪遊び」では親子で一緒にそりすべりや雪遊びを楽しみながら、自然体験活動の素晴らしさを味わうことができた。また、ミニコンサートや紙芝居では、歌いながらのゲームやダンスなどをおとした参加者同士の交流や、あたたかい雰囲気の中で親子がふれあい、スキンシップを深めている姿が見られた。「ダンボールであそぼう」では、講師の参与観察によるいろいろな遊具を使った遊びやダンボール遊具と忍者ランドの遊具を設置したコースでの親子一緒に自由遊びにより、親子でふれあいながら「36の基本的な動き」を取り入れた遊びを通して、楽しみながら様々な運動に取り組むことができた。親プログラムの「親カフェ」では、「子供と二日間一緒に過ごして楽しかったこと」や「子育てで頑張っていること」などをテーマに、小グループで思い思いに語り合いながらコミュニケーションを深めることができた。

この事業で使用したダンボール遊具と忍者ランドの遊具は、今後の当施設における活動プログラムや幼稚園・保育園への出前事業の遊具として使用し、ダンボールと忍者ランドを使った「36の基本的な動き」の普及にも役立つと考える。

7 今後の課題

子供プログラム「紙芝居」の時間設定を60分とし、体験型や参加型の内容を取り入れて実施したが、参加した子供の発達段階を考慮すると30分から40分の時間が妥当ではないかと感じた。今後、時間設定について検討していく。また、親プログラムの「親カフェ」を1日目に設定することで親同士のアイスブレイクになり、2日目の活動が更に活発化することにつながると感じた。今後、親子を対象とした事業における親同士のアイスブレイクになる活動や手立てを工夫していく。



ミニコンサートを楽しむ親子



紙芝居を楽しむ親子



ダンボール遊びを楽しむ親子



講師による親カフェ